

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の終了を見込んだ駆け込み 需要が起きている。	
	やや良く なっている	一般小売店〔菓 子〕（総務担 当）	お客様の様子	・夏季休暇により客数は増加しており、売上も相応に ついてきている。	
		百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・中元商戦は7月になり、客数・販売数・売上共に前 年を上回った。しかし、割引商品や3,000円未満の低 価格商品への関心が高く、価格に対しての慎重さは相 変わらず続いている。一方で、瀬戸内国際芸術祭関連 の商品問合せが多く、県外からの来店が増えており、 客数増加に繋がっている。	
		スーパー（店 長）	競争相手の様子	・極端に安く売らなくても、売上が伸びている。価格 よりも価値を求める客が徐々に増えてきている。価格 中心の競合店の売上げは低下しているとも推察され る。	
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・5月までは、来店客数は3%程度の減少で推移して いたが、現在は回復基調にあり7月は前年並みまで 戻ってきた。猛暑の影響で飲料や、土用丑の日でうな ぎの売上げが好調であった。中元商品もビール、飲料 を中心に売れている。	
		スーパー（企画 担当）	販売量の動き	・梅雨明け後の猛暑で飲料等の消費が大幅に伸びてい る。自家消費は増えているが、中元に関しては手控え 感がある。	
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・客数、客単価ともに前年水準に戻っている。各時間 帯を通じて来客が増加している。「必要な物だけ」か ら、プラス1品余分な物を買って行かれるケースが目 に付き始めた。	
		コンビニ（総 務）	来客数の動き	・7月は天候や気温に恵まれ、来店客数の前年同月比 では、6月から1ポイント上昇した。	
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・エアコン、テレビ等の販売数が、前年比130%程度 で推移している。	
		家電量販店（営 業担当）	販売量の動き	・冷蔵庫や洗濯機の売れ行きがよい。設置スペースぎ りぎりりである大容量の冷蔵庫や、ドラム式の洗濯乾燥 機の割合が特に大きい。テレビは2台目、3台目とし て32型が売れているが、全体の販売台数は落ち着いて いる。エアコンは前年より多少良くなっている。	
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の駆け込み需要が多い。制 度の終了以降については予測が出来ない。	
		乗用車販売店 （役員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の9月末終了が近づいてい ることで販売、受注が伸びている。	
		旅行代理店（支 店長）	販売量の動き	・国内個人旅行は、引き続き「安・近・短」の傾向で ある。海外個人旅行の申込みは増加している。特に ヨーロッパ等、単価の高い方面への旅行の申込みが多 い。	
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・来店客数が、対前年度で約10%程度増えている。	
	変わらない		商店街（代表 者）	来客数の動き	・異常気象により客足が悪く、売上に影響している。
			一般小売店〔酒 類〕（経営者）	販売量の動き	・中元の動きが昨年よりも悪い。また、当地での高速 道路無料化実験の恩恵が肌で感じられない。
			一般小売店 〔酒〕（販売担 当）	販売量の動き	・夏場はビール等で需要が増加するはずであるが、勝 負取引先である料飲店向け販売は低迷している。家庭 用でも価格競争で量販店へ客が流れている。中元も伸 び悩んだ。
			百貨店（営業担 当）	それ以外	・前年同月に比べ来客数および売上高共に若干下回 った。クリアランスセールの上上においては前年並みを 確保した。中元商戦において、法人需要の減少を受注 ルートの拡大によりカバーできたため、食品は前年を 上回った。
			百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・定価商品の動きは依然悪く、特価商品のなかから良 い物、必要な物のみを選別する傾向が強い。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・食品は、エコポイント関係の補助がないため、販売 数量は伸び悩んでいる。	
		スーパー（人 事）	販売量の動き	・販売の状況からでは、変化がみられない。	

	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・7月はバーゲン月で、且つ夏のボーナス時期であり期待はあったものの、バーゲン初日が振るわず、それ以降は前年並みで推移した。初日落ち込みのカバーができず、結果的に厳しいものとなった。
	衣料品専門店（副店長）	お客様の様子	・夏休みで県外に出る人が多くなるなか、買物目的で外出するとの声をよく聞く。全体的には、横ばいで推移していきとみている。
	家電量販店（店長）	単価の動き	・エコポイント対象商品3品目の前年比単価としては、テレビは76%、冷蔵庫は90%、エアコンは91%となっている。台数は伸びているにもかかわらず、単価が下落している。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・平成22年春以降、エコカー購入補助金制度による販売台数の増加が見込めなくなっている。従来年の販売台数に戻りつつある。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月の参議院選挙の前では人の足が止まった。選挙終了後もいっこうに動きがない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・7月は特に良くない。夏休みに入り、家族旅行の増加を見込んでいたが、昨年以上に悪い。四国は良いと言われながらも、まだドラマ効果が出ていない。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価を下げることで来客数の確保を試みるものの、別の目玉的要素がなく来客数は伸び悩んでおり、全体としては、変化がない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・夜の街に、自転車で来る方が多い。給料のペアなしも影響し、出歩く頻度が少ない。単価も下落している。
	設計事務所（所長）	それ以外	・職人余剰の建設会社が見受けられる。
	設計事務所（職員）	販売量の動き	・販売量は、現時点では昨年並みであるが、今年度のペアなしや夏のボーナス減少の影響による可処分所得減もあり、やや悪い。ここ数か月の動向は変わらない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・土日は観光客中心に来街客がある。一方で、平日の、特に夕方から夜間は、夏休みにもかかわらずファミリー層や学生が極端に少ない。暑さも考えられるが、厳しい状況である。
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	単価の動き	・5,000円超の高額コンサートチケットはよく売れている。一方で書籍は1,000円超の売行きが悪く、前年比で下回っている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・中元の状況として、届け件数が減っている。客は少し節約志向になっている。
	衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・客数の確保は出来ているが売上は減少している。7月はセール月にもかかわらず、前年比で客単価が10%前後下落している。昨年に比べて雨が多く、梅雨明け後も猛暑が続き、商店街の通行客は少ない。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・6～7月にかけて客数は前年水準に戻ってきた。しかし昨年が非常に悪かったため良かった印象はない。梅雨の期間も日中の降雨が少なめで、客足に影響が出ることは少なかった。早い梅雨明けとその後の猛暑は、来店客回復の一因にはなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・梅雨明けの酷暑のなか、本来ならば乗客は増えるのであるが、昨年以上に悪い状況である。夜間では中心街の再開発の影響からか、休業の店舗もあり、飲みに出る人も少ない。また、近距離乗車が依然多く、売上が伸びない。
	通信会社（企画）	お客様の様子	・季節要因も多少影響しているが、例年より顧客の反応が悪い。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・7月に当ポート場でSGレースが開催されたこともあり、本場のみの売上という点、前月比31%増加となった。しかし一方で、SGレースが開催されたにもかかわらず3か月前比で4%減少、前年同月比では16%減少、SGレース単体の売上に至っては前年同月比10%減少と振るわなかった。
	美容室（経営者）	単価の動き	・来客数は前年同月比で同水準ながらも、客単価は低下している。
	悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子
衣料品専門店（経営者）		来客数の動き	・7月はセールであり、本来は来客が多いにもかかわらず、実際は来店数が少ない。

		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・7月は、2～3か月前や前年と比較して、予約率が少なく、悪い状況にある。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	輸送業（経営者） 通信業（営業担当）	取引先の様子 それ以外	・客の動きや話す内容から、前向きな発想が聞かれるようになった。 ・夏休みに入ったことや、徳島・北海道間の直行便が8月末で廃止されることもあり、旅行代理店各社が「ラストフライト・ツアー」を企画し、夏の家族旅行や個人旅行で北海道に行く話を色々な場所で聞く。また、円高メリットから海外に旅行するという話を複数の人から聞く。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・天候不順等もあり、受注量は伸び悩んでいる。それに伴う販売量についても、業務用を中心に落ち込んでいる。
		繊維工業（経営者）	競争相手の様子	・当社自身は取引先の新規開拓等で業績が堅調である一方、同業他社や関連加工場の様子からは大変厳しい状況が伺える。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社新商品のクリーナーが少しずつ認知され始めている一方、トイレットペーパー部門は依然悪い。全体としては上昇してきている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新年度以降は、新たな受注売上が極端に減少している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・環境関連や太陽光発電設備の需要が引き続き好調である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・これまでと同様に、受注が伸び悩んでいる。
		輸送業（統括）	取引先の様子	・荷物出荷量に大幅な変化はなく、横ばい状況である。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・夏場は商業印刷にとって閑散期にあたり、商材の動きはそれほど激しくない。短期的な先細り感はあまりない。
公認会計士		取引先の様子	・取引先の決算状況や月次試算表が対前年では悪化しており、赤字先も7割に近い。売上もほとんど伸びていない。	
やや悪く なっている	木材木製品製造業（経営者）	競争相手の様子	・競争相手や得意先など、周辺の状況が非常に悪い。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・公共工事では、最低価格制度がある程度機能しており、安値受注に歯止めがかかっている。一方で、民間工事では、明らかに赤字受注と思われるものが多い。	
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・季節要因も影響し、全般的に販売量は伸び悩んでいる。この傾向は夏場継続する。また、受注案件の価格競争は厳しく、楽観できる状況にない。	
悪く なっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・生産調整による原材料輸送量の減少、及び輸送料単価値下げの動き有り。	
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・医療福祉関連企業を中心に、幹部候補の採用が少し活発化してきている。また行政の共同企業体事業における輸出マネージャ採用などもみられ、回復感はある。
	変わらない	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・6月に比べ、7月は約1.5倍の求人数があり、前年同期と比べても2倍近い数の求人数がある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一般求人にはあまり動きがない。求職者数は減少傾向にある一方で、パート求人も減少している関係から、求人倍率は大きな変動はない。
	やや悪く なっている	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・前年同期比で就職者数が約3割減少している。ただ、当地での高速道路料金無料化により、他地域での一時的な就職の可能性も考えられる。
		職業安定所（職員） 民間職業紹介機関（所長）	それ以外 周辺企業の様子	・6月の有効求人倍率は0.51倍で、3か月前より0.08ポイント下回った。 ・県内の食品製造業の景気は思わしくなく、売上減少が続いている。特に、販売面では土、日の売上が半減しており、企業業績を圧迫している。

	悪く なっている	新聞社 [求人広 告] (担当者)	周辺企業の様子	・ 広告出稿では、政府の事業仕分けで各種団体への補助金が切られた影響もあり、啓蒙広告が激減した。不動産業界は壊滅に等しいほど縮小したままである。多少良いカーディーラーについても、エコカー購入補助金制度の打ち切りが近づいており、予測困難である。
--	-------------	--------------------------	---------	---